

平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立東与賀中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成29年4月18日(火)

■ 調査の対象学年

中学校3年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、数学A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、数学B〕
- 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 - 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	- 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 - 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

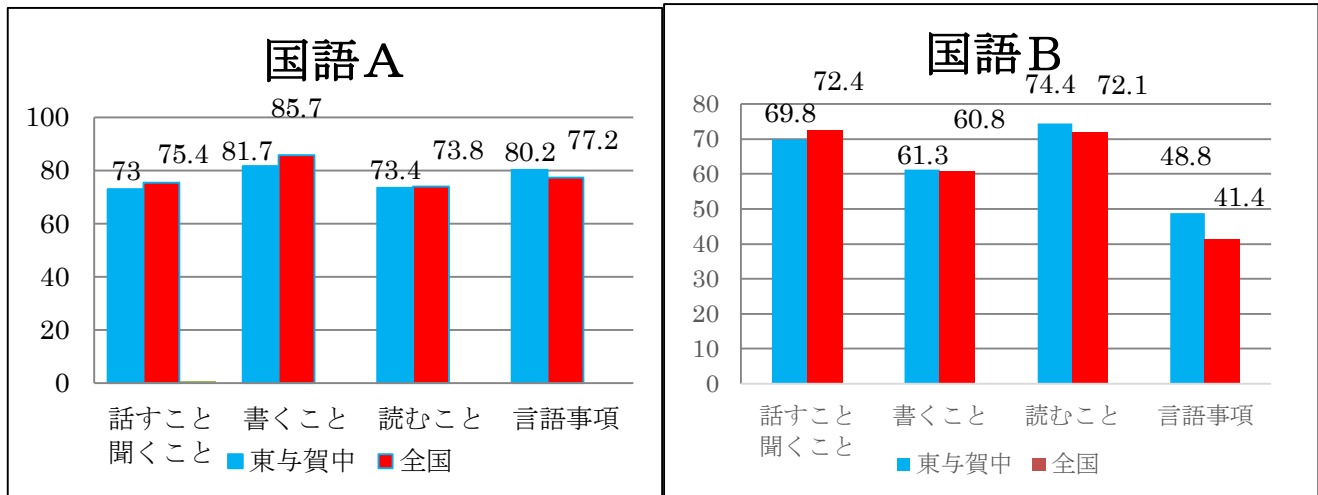
■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は中学3年生（小学6年生）と限られた学年が対象であり、教科は国語と数学（算数）に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

1 国語

(1) 結果

学習指導要領の領域等の平均正答率の状況



国語Aの全体正答率が本校は78%、全国は77.4%と0.6ポイント上回っている。国語Bの全体平均正答率が本校は72%、全国は72.2%とほぼ同じである。無解答は、ほとんどない。

(2) 各領域における成果と課題

話すこと・聞くこと

- 国語A、Bともに全国正答率を下回っていた。話すための材料を選ぶ、相手に分かりやすく工夫して話す、話の論理的な構成や展開などに注意して聞く等、「話すこと・聞くこと」全般において、全国平均を下回っている。選択式の解答が誤答であった。普段から、話を聞く視点をもたせ、相手に伝わりやすい話し方の工夫を国語の授業で行い、さらには、国語の授業だけではなく、日常生活や集会でも話し手の意図を考えて聞いたり、聞き手を意識して話したりする機会を多くもつことで、話すこと・聞くことの力を付ける必要がある。

書くこと

- 全国平均を下回っている設問は、書いた文章を読み返し、語句の使い方を工夫して書くものや書いた文章についての助言を基に、自分の表現を見直す等、語句語彙力や推敲力が関わっている。普段の授業で「書くこと」そのものには抵抗なく取り組む生徒が多い。ただ、語句語彙の選択や推敲については、今後、授業や日常生活の会話の中で力を付ける必要がある。

読むこと

- 「読むこと」は国語Aでは全国正答率より0.4ポイント下回っていたが、国語Bでは0.5ポイント上回っていた。授業の中で、主体的に取り組むことや要旨のまとめ等自力で取り組んできた成果が見られる。

言語事項

- 漢字の読み書きは「覚悟を決める」が全国平均正答率を2.2ポイント下回っているが、他は全て全国正答率を上回っている。古文や比喻表現など知識事項は確実に定着している。ただ、語句・語彙で全国正答率を下回っているものが多く、辞書の活用などで語彙力を高める必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 授業において、話す・聞く活動では、目的に沿った話し方や聞き手を意識した話し方を身につけるよう指導していきます。
- 普段から文章を書いたり、考えをまとめたり書く力をつけ、さらには推敲力や語彙力をつけていきます。
- 授業の中では国語辞典の活用で語彙力の向上を目指します。

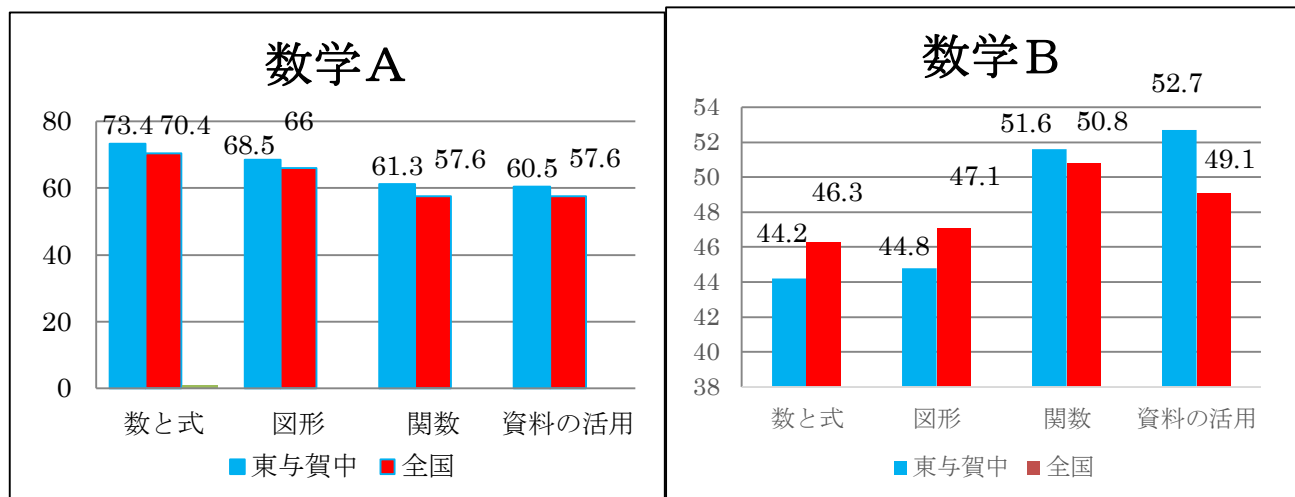
【ご家庭では】

- ご家庭でも会話を楽しみましょう。聞くときは最後まで聞き、話すことは文末まできちんと話しましょう。話をする中で根拠を尋ねたり、互いの考えを交流したりしましょう。
- 分からない言葉の意味を辞書で調べましょう。(国語辞典は必需品です)
- 今習っているところの音読・漢字練習やノートやノートブックを使って復習しましょう。さらには、テストの後にはもう一度解き直し、分かるようにしておきましょう。

2 数学

(1) 結果

学習指導要領の領域等の全国正答率との比較



数学A、数学Bで、数学Bの数と式以外は、すべての領域において全国正答率を上回っている。問題形式ごとの正答率を見てみると、文字式・一次方程式・連立方程式の計算、一次関数の式を求める問題等の決まりごとを正しく理解できている。さらに、文章を読み取って、合同条件、一次関数の式を求める問題もできている。ただし、空間における直線と平面の関係を求めたり、証明で新しい性質を求めたりする問題ができていない。

(2) 各領域における成果と課題

数と式

・数学Aは、ほとんどの問題で全国正答率を上回っていた。特に、文字式、一次方程式、連立方程式の計算の問題は、全国正答率を10ポイント以上上回っていた。一方で、数量の関係を文字式で表す問題は全国正答率を5ポイント以上下回っていた。今後は、文章を正しく読み取って立式する技能を定着させる必要がある。

図形

・数学Aは、ほとんどの問題で全国正答率を上回っていた。特に、知識・理解を問う問題は全国正答率を上回っているものが多かった。空間における直線と平面を問う問題だけが全国正答率を10ポイント以上下回っていた。また、証明などの筋道を立てて説明する記述式の問題に弱い傾向が見られた。

関数

・数学A・数学Bは、すべて全国正答率を上回っていた。特に、グラフから式を求める問題は、全国正答率を10ポイント以上上回っていた。

資料の活用

・資料を読み取る問題は、全体的に全国正答率を上回っていた。度数分布表から相対度数を求める問題は、宣告正答率を10ポイント以上上回った。しかし、範囲を求める問題や確立で「同様に確からしい」文を選択する問題では、全国正答率を5ポイント以上下回った。すべての数学的用語を正しく理解できていないため、問題によって全国正答率との差があった。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 授業では、電子黒板を活用し視覚的に捉えさせることで、生徒の考えを深めさせるようにしています。また、グループ学習では、他者に説明することによって、理解をより深めることができると考えます。
- テストでは、問題のポイントを前もって提示したりして、取り組むべき課題を明確にします。また、問題の難易度を生徒の実態に合わせて作成し、生徒達の頑張りによって、大きな達成感を感じられるような工夫をしていきます。
- 定期テストや実力テストなどの後は答案を分析し、それぞれの生徒の苦手な領域を克服する手だてを実行していきます。(小テストや補充指導など)
- 小テストやノートチェックなど、日々の指導の中で個々のつまずきを早期に見つけられるよう努めます。

【家庭では】

予習の仕方

- 教科書の次の授業範囲を読み、大切だと思うところにアンダーライン等を引きましょう。
- 例題を解いてみましょう。解けなかった例題、問題に印をつけて、必ず質問する習慣をつけましょう。

復習の仕方

- 授業で学習した課題は、その日のうちに必ず復習をし、授業ノートの間違いを理解しましょう。
- 計算力をつけるためには、反復練習が必要です。本当に理解しているか、実際に問題を解いて、確かめましょう。解き方がわからないときは教科書の例題やノートを見ながら解きましょう。